

## インターバンクの声（2016年3月17日）

15・16日の2日間にわたって開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）は、政策金利を据え置く一方、米経済の緩やかな成長と雇用の堅調さが続いていることから、年内に再び利上げすることは可能との認識を示した。ただ、市場は今回示された声明と経済見通しが明確にハト派寄りになったとして、短中期を中心に米国債利回りが低下、株価の上昇、ドル売りへの反応を示した。昨年12月の時点で示された2016年内4度の利上げ見通しが、今回は年内2度の利上げの可能性に変更されたこともハト派寄りに傾いたとされる根拠になっているようだ。それでもイエレン議長は会見で、「原油価格が50ドルに上昇すれば、コアインフレの見通しも若干上昇し、2%の目標まで回復するためにかかる時間の短縮にもつながる」などと述べている。2016年の経済見通しに対しても、米経済自体の問題より中国を含めたグローバル経済による影響を大きな懸念材料として捉えているようだ。次回の利上げ時期に関しても、市場は4月の可能性が小さくなり、6月か7月にずれ込むとの予想が広がっているが、あまり今から決めつけられないほうが良いかも知れない。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。